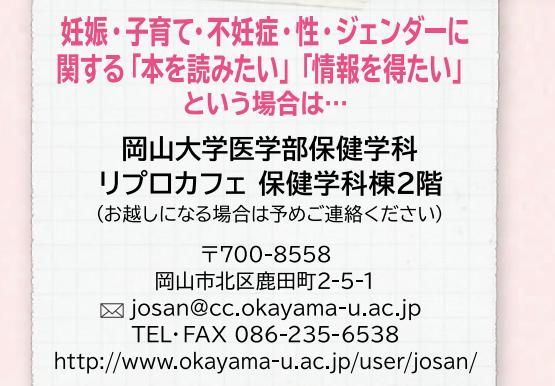
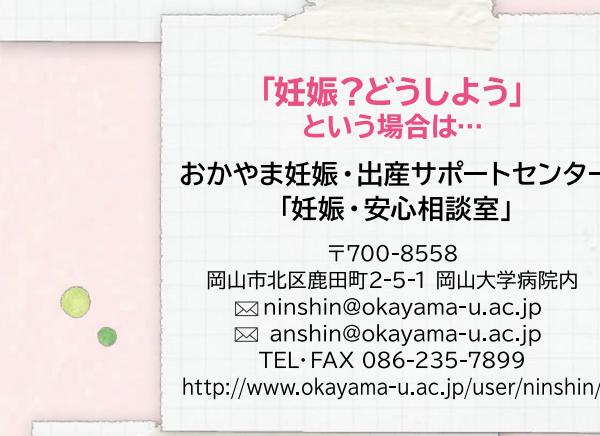
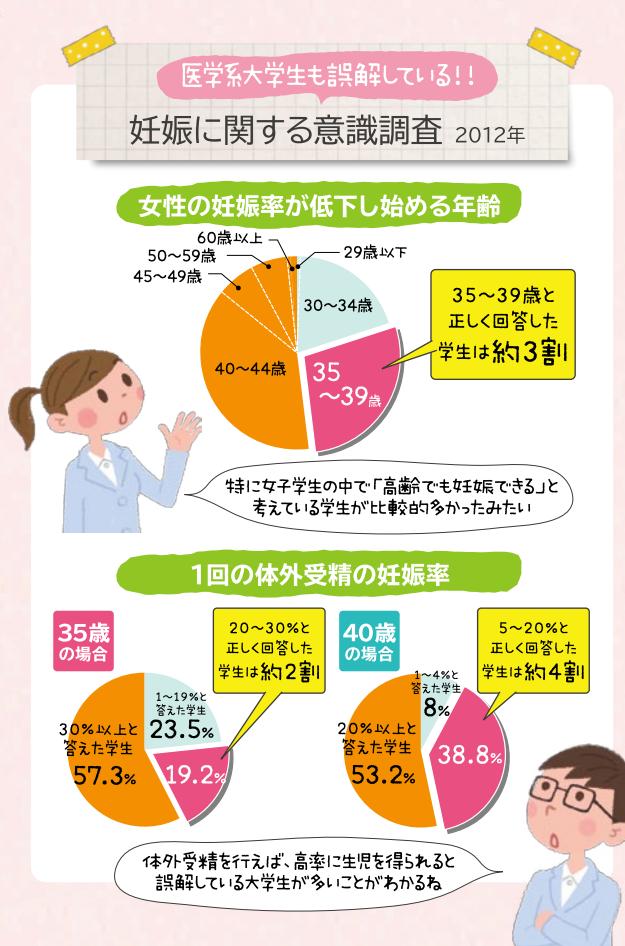


# 年齢と卵子や精子のかんけい

近年、不妊症で悩むカップルが増えており、6~7組に1組ともいわれています。原因のひとつとしては、晩婚化に伴い、年齢を重ねてから出産を希望する人が増えていることがあげられます。男女ともに、年を重ねると子どもを授かるカップルの割合は低くなります。年齢と妊娠しやすさの関係を、グラフをみながら理解していきましょう。

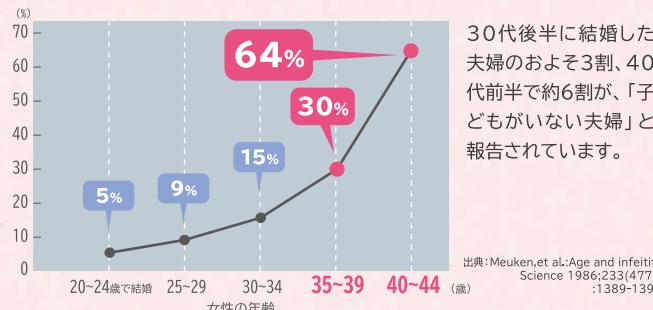


「岡山県妊娠性等普及啓発標準プログラム」等作成事業  
岡山県保健福祉部健康推進課  
岡山大学大学院保健学研究科  
—監修—  
岡山大学大学院保健学研究科  
岡山大学生殖医療技術(ART)教育研究センター  
中塚幹也

「岡山県妊娠性等普及啓発標準プログラム」等作成事業  
岡山県保健福祉部健康推進課  
岡山大学大学院保健学研究科

# グラフでみる“年齢と妊娠しやすさ”

## ● 年齢別に見た 子どもがいない夫婦になる率

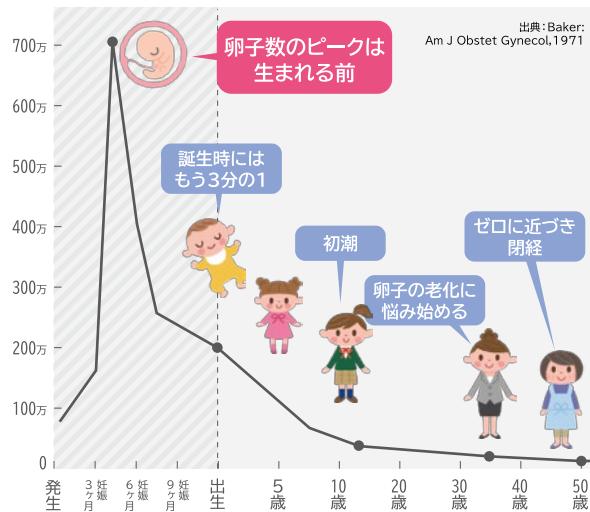


## 卵子老化について

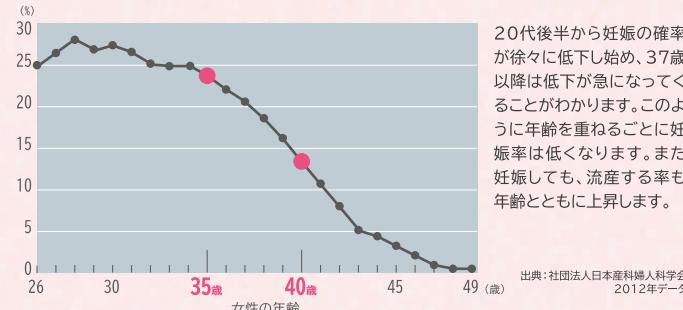
聞いてびっくり!!

## 卵子の数のピークは胎児の頃！

卵子の数のピークは胎児のころ、母親のお腹の中にいるときです。出生時には体内に約200万個の原始卵胞をもっていますが、毎月約1,000個ずつ減っていきます。

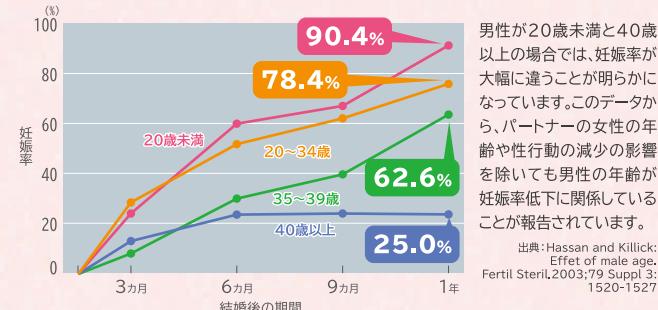


## ● 20代後半から徐々に低下 体外受精による妊娠率



## ● 男性も人ごとではない！？不妊の原因の半分は男性に 男性の年齢と妊娠率

男性が原因とされる不妊のケースは全体の15～50%と、比較的高いことが知られています。男性の年齢が20歳未満の場合、結婚して1年間での妊娠率は90%であるのに対し、40歳以上では25%と低下していることがわかります。このように女性だけでなく男性の加齢にも不妊の原因があることがわかっています。

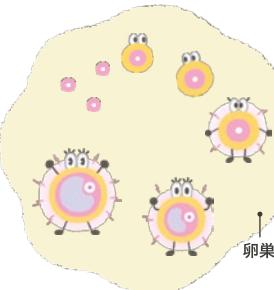


## 卵巣年齢がわかる！?

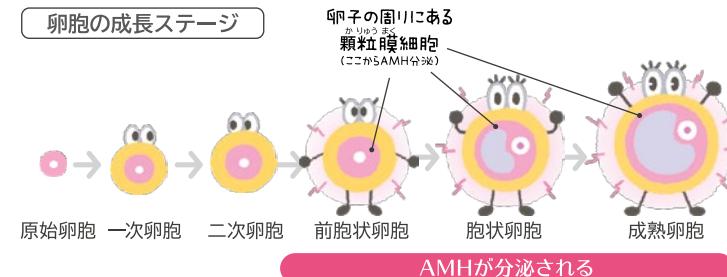
## AMH (抗ミュラー管ホルモン) ってなに？

AMH：抗ミュラー管ホルモンは、卵巣内にある前胞状卵胞の顆粒膜細胞から分泌されるホルモンです。卵巣の中には様々な成長ステージの卵胞があり、その中にはAMHを分泌している卵胞もあれば、AMHが分泌していない卵胞もあります。

卵巣の中には  
色々な成長ステージの卵胞がある

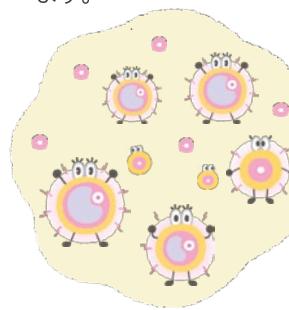


## 卵胞の成長ステージ



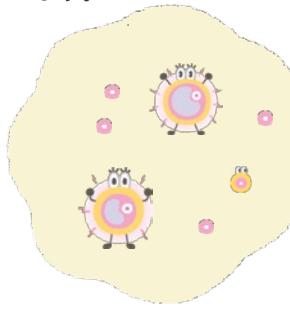
## AMHの値が高い

AMHを分泌している卵胞の数が多いので、卵胞がたくさんあると予測されます。



## AMHの値が低い

AMHを分泌している卵胞の数が少ないため、卵胞の数も少ないと予測されます。



このようにAMHは卵巣の予備能を推測する検査です。それには卵巣内にある卵胞の数が大きく関係していることがわかりますが、多嚢胞性卵巣の有無や、卵胞の成長周期のタイミングによって検査結果が変わってくる場合もあります。値が低下していても妊娠しないというわけではありません。そのことを理解した上で、本当に知る必要があるかよく考えて検査を受けるかどうか決めましょう。

AMH=卵巣年齢といわれるるのは  
卵子のおよその数が  
わかるからなんだね

